

(高田部会長) ありがとうございます。国吉さんと村松さんに原稿を書いていただいて、メールでも事前に内容についてコメントをいただいています。皆様ご覧になったかとは思いますが、国吉さんが欠席ですので、私からご説明をさせていただきます。「地域緑のまちづくりのところは、ピフォーアフターがわかる写真があるほうが、実績の変化がわかりやすくよいのかなと思いますが、いかがでしょうか。」ということでご意見いただいています。あと、村松さんのコメントをよろしく願います。

(村松委員) 原稿案左側の文章について、少し文章や文言のつながりがどうかなという感じだったので、昨日メールで4点修正案として出させていただいています。

4点目の「初めて乗っても誰でも楽しめる～」と「花時計をつなぐ多くの人の協力」とありますが、最初の構成の流れを考えたときに活動のことを最初にして、それから多くの人々の協力ということで持っていこうということ国吉さんと考えました。最初の「このレガシー繋ぐ花時計」のところではいろいろな人の協力があるということ最初に言っています。そこにすぐつながるように、「多くの人の協力」ということが先にあって、それで「誰でも楽しめる」というように表現したほうが、この表題とのつながりがいいかなと思いました。

(高田部会長) ありがとうございます。皆様のご意見、いかがでしょうか。そう言われてみるとこの花時計についての説明が最初にあって、その次に続きとして多くの方のご協力があるという順番というのは自然かなとは思いました。

(村松委員) レガシー繋ぐ花時計の最後の文で、「いろいろな方々の協力ですずっと育まれてきている」という文章があります。どういう方がやっているのかなということ次にして、そのあとに、「誰でもいろいろな方が楽しんでます」という流れのほうがいいかなと思いました。

(高田部会長) 奥井さん、どうでしょうか？

(奥井委員) ご説明を聞いて、私もそう思いました。

(高田部会長) 順番については。

(奥井委員) 順番については、そのほうがすっきり、すっと入ってくるような感じがしますね。

(高田部会長) 高橋さん、どうでしょうか？

(高橋委員) そう思います。

(高田部会長) 村松さんがおっしゃっていた文章についても、おっしゃる通りでいいでしょうか。

(奥井委員) 大丈夫です。

(高田部会長) 高橋さん、どうですか。

(高橋委員) 村松さんのお考えがいいのではないのでしょうか。

(高田部会長) これについては、4つの修正案に沿ってよろしいのではないかという意見でよろしいのでしょうか。

(高橋委員) 気になったのは、この「レガシー繋ぐ花時計」の「レガシー」です。「レガシー」というのは開国博 150 周年のことですよ。

(高田部会長) そうですね。レガシーについて説明がありません。

(高橋委員) レガシーというのは受け継がれたものだから、つなぐというのは当たり前のことです。ここで言いたいのは「花時計がレガシーを繋いでいる」ということですよ。「開国博 150 周年のレガシー花時計」など、なんのレガシーかというのは見出しでわかるようにしといたほうがいいのでは。文章読んで、やっとな、これは開国博のレガシーなのだなということとはわかりますが。

(奥井委員) もし、レガシーという表現をするのでしたら、贅沢を言えば 150 周年記念のときの大きい花時計の写真があればいいと思います。それが、終わって撤去を惜しむ声があったから、小さい物にモニュメントとして残ったというのがわかると「これがレガシーだ」という意味がわかるのかなと思いました。

(高田部会長) それ、つながってきているのだということですよ。

(奥井委員) 背景というのか、10 年前の大きなモニュメントがあったの今だというのがわかる当時の写真があればわかりやすいかなと思います。

私も、全然想像がつかないので。実際、見たかどうか覚えていないのですけれども。それがあると、もっとわかりやすいかなと思いました。

あと、素人目に見て、何が花時計か少しよくわからなくて。この三角の針が花時計ということでしょうか。

(高橋委員) そうですね。

(奥井委員) これ、日時計ですよ。ぱっと見でどう花時計なのか。私、最初にお花の時計かと思っていました。時計がどこにあるのだろうと、見てわかりませんでした。

何が花時計かなとずっと思っていて。今、やっとな、これが針で日時計なのかと理解できました。花時計は普通花壇になっていて、時計針があるとと思っていました。読者に想像させないと、わからないと思います。

(高橋委員)	日時計ときちんと書いといたほうがいい。
(奥井委員)	贅沢を言うと、そうなっている写真があるとわかりやすいのかなと思いました。
(高橋委員)	最初は、あそこら辺を通ったときに、花時計がどこにあるのかわかりませんでした。
(奥井委員)	通り過ぎてしまいますよね。花時計のイメージと異なるので。見に行けたけれども、なかったよということにもなりそうな気がします。
(事務局)	まずは、当時の写真を探すのが一点と。あと、花の日時計というような名称にして、少し補足する感じがよろしいでしょうか。花時計だと、確かに奥井委員がおっしゃる通り、「見当たらない」となってしまうときに、日時計であれば、これが当時の写真もあれば、なおさらそれで伝わるかなということ。少し、そこは工夫させていただきたいと思います。
(高田部会長)	当時の写真は探せばたくさんありました。当時の市長がイベントしているところなど、使っているのかどうかかわからないですけども。当時から「花時計プロジェクト」と言うのですね。
(奥井委員)	そもそもの名前がわかりにくいですよ。時間で花が12分割されているのでしょうか。
(高田部会長)	そのあたりは、よくわからない。今は、たぶんそうではありません。
(奥井委員)	では、数字になるような花があったのでしょうか。
(高橋委員)	今は、ないです。
(高田部会長)	そもそも今は、このモニュメントを活かして残すという感じ。この写真にある通り日時計の日が差す方向にロープウェイの駅舎のビルがあるので。日時計の役割を果たせていない。そのモニュメントを活かして、前はこうだったみたいなところで花の続きをここに再現しながら、皆さんで守っていて、楽しむ場所として意味づけているということですね。
(高橋委員)	スチール製の日時計、あれがレガシーという意味ですね。確か場所を少し移し、大きい 30m×40mの花時計花壇を少しコンパクトにしたと言っていました。
(奥井委員)	皆さん、ビフォーアフターがわかりやすいとおっしゃっていただきましたが、個人的にはどちらかという現状写真のほうがすっきりしていて見やすいかなと思いました。

	<p>というのも、ビフォーアフターのほうだと地図が小さくなってしまいます。文字が小さくてこの文字は見えにくいのではないかと思います。地図が大きいほうがすっきりしていてわかりやすいかなと思いました。</p> <p>あと、もう1つ言うと。ケーブルカーの正式名称が“YOKOHAMA AIR CABIN”なのだというのが、地図でわかりましたが、文章の中でロープウェイと書いてあります。ちょうど昨日、友人とそのような話をしたら、友人は「ゴンドラ」と言っていました。私も、ケーブルカーというイメージがあって。文章を読んでいて“AIR CABIN”と書いてあるからどちらかに統一したほうがわかりやすいと思いました。</p>
(高橋委員)	桜木町の駅には、ロープウェイと書いてあって、かっこ書きして“YOKOHAMA AIR CABIN”の行先案内がありました。
(奥井委員)	それでもいいと思います。かっこして“YOKOHAMA AIR CABIN”など。 さらに贅沢を言うと、このマップの中にも写真の場所を示す番号があるともっとわかりやすいと思います。 私がマリンウォークなどを見たときに、4番はどこだろうと探したりしたので、この地図の中にも番号が振っていると、より親切だと思いました。
(高田部会長)	ロープウェイの“YOKOHAMA AIR CABIN”など。そこら辺は、普通に入れていただけだと思います。ビフォーアフターにするか、又はこちらの写真だけにするのかというのが1つあるのかなと思うのですけれども。
(村松委員)	私も、ビフォーアフターがあるほうの地図は小さすぎると思います。地域緑のまちづくりをきちんと示すには、ビフォーアフターがあったほうがわかりやすいし面白いのだけれども。写真を見るとそんなですし、以前のほうが綺麗だったりする。
(奥井委員)	私も、それは思いました。
(高田部会長)	ただ季節の違いではないかなと思ったり、ただ成長したのではないかなと思ったり。どこをどうしたのですかと思ったりはしました。
(村松委員)	中央広場は、確かに綺麗になっています。
(高田部会長)	アニヴェルセルみなどみらいは同じような木の、たまたま植栽の時期が違うのかなと思うぐらいで。「こんなに変わった」というのになっていないと説得力がないですね。最初の“MARINE & WALK YOKOHAMA”のところも、たまたま剪定をかけた前と、あと伸びているだけかなと思うぐらいで。実際に緑化したときは、どのような計画でどこがどのように増えた、変えたということを少しご説明

	<p>いただけますでしょうか。</p>
(事務局)	<p>これは、少しカラフルな葉っぱとお花を入れています。ベースの部分というのは、本当に基本的な植栽しか行いません。写真のサイズ感も含めて、あとゼロからの比較ではないということから言うとやはり、その大きさを写真で表現するというのはなかなか難しいです。逆に近づいた写真を撮ってしまうと、場所がわからない。風景が映らなくなってしまったので、少し事務局側も苦労するところは正直あります。季節変動もありますが、近くに寄れば綺麗になったというところは、実感いただけるかなと思います。</p>
(高田部会長)	<p>そうすると、現状このようになっていますと言ったほうが、まだ説得力あるのかな。</p>
(事務局)	<p>先ほどの地図内に番号で地点をプロットする。ビフォーアフターよりも、ずばり今ある豊かな緑を見に行きたいという意味で言えば。アフターだけなのほうが紙面上はすっきりする印象があります。</p>
(高橋委員)	<p>アクションを起こしてもらおうという趣旨からすれば、この地図を見ながら行ってみたいなと思っていただきたい。</p>
(奥井委員)	<p>地図は結構いいと思います。</p>
(高田部会長)	<p>ここに行けば見られるとわかるように。</p>
(事務局)	<p>この紙面を持って、実際に現地を見て変わったという見方をしないと想定すると。今の豊かな緑、カラフルな緑、そういったことを見ていただくというのがいいのかなとは思いますが。</p>
(高田部会長)	<p>そうすると、こちらの4枚の写真のほうが良さそうですね。そして、地図に番号も入れていただく。 実際に行っていたきたいので、そのような言葉もあるといいのかなと。「もっと積極的にこういうところがありますので、どうぞいらしてください」というような。文章的には、注目という言葉ではないほうが、「お出かけください」など。</p>
(高橋委員)	<p>花壇の手入れは「誰でも参加できる」ということで、一応、来た人は手伝っていただいて問題ないのだけれども。見に来ていただければという感じで、「お出かけください」という趣旨があったほうがいいと思います。あと、この記事と写真の解説を見て少し違和感があったのは、保育園児が写る写真①の「子どもたちも飛び入り」というキャプションです。本文では「保育園の子どもたちが、植え替えや水やりに来ています」と説明しています。飛び入りではないですね。</p>
(高田部会長)	<p>毎回、定例でここに目的を持っていらしている様子を。</p>

	<p>(高橋委員) 「保育園児たちも参加」など「飛び入り」を抜かした形がいいのでは。子どもたちというよりは、保育園児という言葉を入れたほうがいいと思います。写真を見れば、保育園の子どもたちだとわかるので。</p> <p>(高田部会長) ここは保育園児たちと文章をもう少し具体的に。そのほかにも、ここを訪れた方のお子さんも参加するという話もありました。</p> <p>(高橋委員) 文章の中では、通りすがりの人たちが手伝ってくれるとありますし、少し写真との組み合わせを考えると修正したほうがいいと思います。 あと細かいところで気になったのは、「一般社団法人のみなどみらい 21」。正式名称は、「横浜みなどみらい 21」ではないかと。確認してください。</p> <p>(高田部会長) そこは正式名称を入れていただくということでお願いします。</p> <p>(高橋委員) 普通は一般社団法人を(社)と表現することで通じていますが、国の関係では、何の社団法人であるか分けていますので、(一社)となっていますね。公益社団法人は(公社)です。</p> <p>(事務局)そこは行数の関係も含めて調節してみます。字数制限がなければ、正式名称の一般社団法人にします。</p> <p>(高橋委員)あと、正式な形にするかどうかでは。現在対応されているボランティアの横浜移動サービス協議会は、2016年からです。最初の2009年から関わっていたのかどうかわかりませんでした。</p> <p>(高田部会長)受け継いでいらした。</p> <p>(高橋委員)現在は対応しているので問題はないと思いますが、たまたま文章に、「10年以上にわたってやってきました」と記載があります。「10年以上にわたって受け継がれて来ました」という表現の方がいいかなと。</p> <p>(高田部会長)歴史が長々とあったお話をされていますよね。</p> <p>(村松委員)いろいろ複雑な流れがあります。</p> <p>(高田部会長)しかし、そこまで詳しく書く必要もないかもしれないですね。</p> <p>(村松委員)若い人、ユースボランティア、りんぐふあくとりーが最初です。若い人は入れ替わりが激しくて続かなくなると言っていました。</p>
--	---

(事務局)	すみません。「レガシー繋ぐ花時計」というところは、先ほど高橋委員から、「レガシーはそもそも繋ぐもの」というご意見がありました。ここは、何か修正をされたほうがいいでしょうか。
(高田部会長)	表題と文章についてですね。
(高橋委員)	先ほど言ったのは、「レガシー」を「開国博 Y150 のレガシー」としてはどうでしょうか。かっこして日時計などでわかるようにしといたほうがいいのかと思いました。
(高田部会長)	このレガシーの言葉をやめてですね。
(高橋委員)	開国博のレガシーであるということを見出しでわかるようにしたほうがいいかなと思った次第です。花時計がレガシーというよりは、開国博のレガシーなのだと。しかし、文章を読めばわかるので。そこら辺は、どのような表現がいいのか。
(村松委員)	表紙も「つなぐ」で。小さい表題にも「つなぐ」、「花時計を繋ぐ多くの人々」と。「つなぐ」が多すぎるのかなという感じです。
(高橋委員)	単純に「開国博 Y150 のレガシー」だけにしますか。
(高田部会長)	レガシーを日時計とするなど。
(高橋委員)	レガシーを日時計で。正式名称にすると、横浜開港 150 周年記念という。そっちのほうのレガシーにしたほうがいいのかなど。
(高田部会長)	開国博 Y150 のレガシーの日時計を表題に、開国博 Y150 という言葉を 1 回入れて。
(高橋委員)	そう思いましたが、「レガシー繋ぐ花時計」だけでも別に問題ないかもしれない。開国博のレガシーを花時計が繋いでいるのだということに、焦点を当てたという意味で。
(高田部会長)	確かに、なんとなく想像させているという感じになりますね。どうでしょうか。
(高橋委員)	短く表現するのであれば、いいのではないのでしょうか。タイトルはあまり長くしないほうがいいのか。
(事務局)	現行のタイトルは、繋ぐという動詞の部分が入ってと事務局としては受け取っています。高橋委員のおっしゃったような、物そのものを言い当てる物としてはより明確というところですので、どちらを取るかなというところだと思います。あまり長いと、中を読んでもくれないところで言うと、いわゆるキャッチフレーズという感じで。

(高橋委員) そうですね。

(事務局) 未完成な日本語でもいいのかもしいかなとは思いますが。その判断かなと思います。

(高橋委員) 何も花時計という言葉はここでは入れずに、横浜開港150周年記念のレガシーというだけでも、読めば内容はわかりますので。表紙の「緑を繋ぐ活動のバトン」を「活動のバトンを繋ぐ花時計」など、ここで花時計というのがわかるようにしてもいいかも。

(高田部会長) 活動のバトンを繋ぐ花時計。

(望月委員) よろしいでしょうか。こういうのでキャッチコピーなので、たぶんうまい言葉ではないということを証明しています。だから、今一生懸命で考えても時間だけ経ってしまう、うまいキャッチコピーは出てこないと思うので、事務局の皆さんでも考えてもらい、委員の皆さんにも考えてもらって、何が一番いいキャッチコピーなのかということをし、間をおいて頭を冷やしてやったほうがいいのかではないのでしょうか。それで3つ、4つ選んでもらって、その中でどれにするかという。キャッチコピーは、ぱっと見た瞬間になるほどというので。このケースで行くとレガシーがあり繋ぐ、花、さらに日時計まで入るので。これは、明らかにキャッチコピーにいろいろなもの詰めすぎちゃっている。普通の人を読んでも、なんだという話になる。

(高田部会長) だんだん、迷ってきってしまう。

(望月委員) だから、もう簡単に言うと、いろいろそういうものは、あとのほう文章のほうで説明するにできてしまっている。それで、花の日時計など、日時計、そういう言葉1つで示すようにしないとキャッチコピーにならないと思う。いい言葉がないということは、少し皆さん頭を捻って冷静になって、いい言葉探すと。今は、決めないほうがいいのかでは。

(高田部会長) ここは、もう一捻りまた案を出していただいてから決めましょう。

(事務局) はい。では、そのようにいたします。

(高田部会長) メールで皆さんのご意見をいただき、少しまとめていくという方向性でお願いしたいと思います。
原稿の締め切りの都合は。

(事務局) 本日いただいた意見を踏まえてデザイン業者へ入稿する関係で、年内いっぱいには案を固めていきたいです。印刷は1月で、発行が2月という形になります。1週間ぐらいで、我々もキャッチコピー案はまとめてそれを提示したいと思います。

(高田部会長) そこら辺のまとめを、よろしくをお願いします。

(望月委員) 一点だけ、要望いいでしょうか。「ここにみどり税」というときに、アクション1号から必ず、葉っぱーが登場しています。私、楽しみにしていて。少しずつ行動パターンがそのときによって違ってきます。花をふったり、こうやって怒ったりとなっていて。実をいうと、密かに楽しみにしていました。

(奥井委員) いなくなっちゃいましたね。

(望月委員) そう、いなくなっちゃったので。これ、どなたが作っているのかなと思って。イモを持っていたり。今回、どこにも出ていないので、ぜひ登場をお願いしたいと思います。

(事務局) 望月委員のご期待に沿えるようにします。

(高田部会長) ぜひ、よろしくお願ひいたします。

(高橋委員) いろんなパターンありますよね。

(奥井委員) やはり、ないと寂しい。

(望月委員) 楽しみにしていて。今回は、何をやるのだろうと。

(高田部会長) では、6号については、ここまででよろしいでしょうか。次に進めさせていただきます。

続いて、2022年度のYokohamaみどりアップActionのテーマについて、事務局からご説明をお願いいたします。

(事務局説明)

(高田部会長) ありがとうございます。

(奥井委員) すみません。質問ですが、市民農業大学講座というのは、受講して修了すると何かに登録などはされるのでしょうか。

(事務局) 任意団体ですが、卒業生での任意団体で「はま農楽」という団体があり、そういった団体に所属した方々がそれぞれ農家さんなどに派遣をされていくような形になります。

(奥井委員) 「はま農楽」は、農家さんのほうからたとえば援農の希望というのか、手伝ってほしいというような要望があればそっちに行く感じで、斡旋ではないですけどもマッチングみたいな感じのことをするというのでしょうか。

(事務局) そのような形になります。

(奥井委員) わかりました。ありがとうございます。

(高橋委員)	それ以外にも愛護会等に入っている方が、この講座修了後、その人たちはそのまま愛護会など活動団体のほうで活躍しています。
(事務局)	緑化などはそちらになりますね。
(高橋委員)	愛護会等にも入っていない方が、はま農楽に登録して援農支援や緑化の支援をするなどしています。私も 2016 年、平成 28 年度の市民農業大学講座、花・緑コースの卒業生です。 講座終了証を翌年の 2 月 15 日にいただき、同時に「地域緑の環境リーダー」という市長名の認定証をいただきました。そういうこともあって、すぐ全国都市緑化よこはまフェアのボランティアに参加しました。
(事務局)	ありがとうございます。
(奥井委員)	素晴らしい。
(高田部会長)	続いてご質問いかがでしょうか。
(村松委員)	はま農楽の事務局へのインタビューなどはないのですか。
(事務局)	それは、可能だと思います。
(高橋委員)	市民農業大学講座は年間で 20 回の講座をやっています。ただ、開催日は野菜・果樹コースと花・緑コースで違います。
(村松委員)	結構、大変だと聞いています。
(奥井委員)	すごい毎週ですね。
(高橋委員)	毎週というよりは、年 20 回だから。そんなに、毎週ではない感じですけども。毎週の時もあります。
(奥井委員)	毎週でもないけれども。結構、密ですね。熱心にやられていますね。
(村松委員)	月 2 回ぐらい。
(高橋委員)	講義があつて、実習があつて、充実した講座でした。
(奥井委員)	環境活動支援センターというのは。
(高橋委員)	保土ヶ谷区にあります。狩場のほうですね。ちょうど、国道 1 号沿いにあつて。箱根駅伝のときは、そのすぐ前を駅伝選手たちが通過していきます。児童遊園地などがある敷地の中に環境活動支援センターがあります。そのそばにこども植物園もあります。

(奥井委員)	そんなに広いのですか。ここで、実習をするのでしょうか。
(高橋委員)	ここで、実習できます。
(奥井委員)	少し、面白そう。行ってみたい。
(高田部会長)	かなり幅広く、専門的に教えていただけそうですね。それを、お伝えするのはどうかということですね。
(奥井委員)	それで、これは7号と8号をどちらかということでしょうか？
(事務局)	7号が今の順番で言うと、森になります。8号が、農のほうになります。
(高田部会長)	3つの柱をテーマに順番に発行しているので今回は森と農ということです。
(奥井委員)	7号が森。取材は行きたいけれども、書くのは大変そうですね。
(高橋委員)	森づくりボランティア入門講座がいいかなと思っています。要は、この講座は森づくりのボランティアをしたいという人が参加します。入門講座を経験して自分でもできるかどうかなど判断することになります。体験会というのはあくまでも、ある程度基礎知識ある人が本当は参加したほうがいい。
(高田部会長)	したがって Action としては、入門からのほうが皆さんに近いところということですね。
(高橋委員)	入門講座への参加を促し、実際の森づくりボランティアにつなげてもらえれば。
(高田部会長)	そこで当然、次の森のボランティア体験会も触れられるし。
(高橋委員)	触れられるし、それ以外にも、春の植物 30 種や夏の虫 30 種、樹木も 30 種など、新治の市民の森で実際に観察会をやっていました。森づくりボランティアに登録するとそういう観察会に参加できたりするので、いろいろな形で関心がある人たちの知識が増えてくという感じです。私が受けたのは 2017 年 10 月で、そのときは 3 回コースでした。コロナの関係なのか、森づくりの体験会が頻繁にやれるようになったからなのか今は 2 回ですね。
(奥井委員)	入門講座のほうが、ハードルとしては低い。
(高橋委員)	森がどういふようになっているのか注意すべきことや、道具の使いなどを教えてください。

	<p>(高田部会長) 体験会は、どちらかというと実践ですか。ある程度森のことがわかっています。</p>
	<p>(高橋委員) 基礎的なことは、ある程度知っていた方がいいですね。知らない人が参加しても、サポートしてくれるとは思いますが。</p>
	<p>(奥井委員) ちなみに、こちらの出来ているチラシは入門講座ですか。</p>
	<p>(高橋委員) それは、森づくりボランティア体験会のほうですね。</p>
	<p>(奥井委員) 体験会に誘っていくということですね。</p>
	<p>(高橋委員) 活動団体によっては、体験会にはできるだけ経験者に来てほしいと要望を出しているところもあります。</p>
	<p>(高田部会長) そうですね。あまり教えたりしていると、作業が捗らないというのもあるではないでしょうかね。</p>
	<p>(高橋委員) 実際には、体験会と言いながらも手伝って欲しいと思っています。体験してくれる人にはできれば自分たちと一緒に森づくりを続けてくれればいいなというような感じになります。</p>
	<p>(高田部会長) しかし、この入門講座は1回とおっしゃったので。この機会を逃すということもあります。もし、本当にこのボランティアの今のような事情があるならばもう少し入門講座を増やしほうがいいという話にもなるのかもしれないですね。これは、取材とはまた別の話にはなると思いますけれども。そこら辺も、実際見たり、聞いたり、現場見たりすると、いろいろな私たちの評価や提案も変わってくるかもしれない。</p>
	<p>(高橋委員) 森づくりボランティアをやってもいいかなと思う人が、この Action を読んで参加してみようとなるきっかけになってくれるとありがたいですね。</p>
	<p>(奥井委員) そうですね。しかし、これ取材が終わってこの Action が出て1年弱待つことになっちゃうということですよ。</p>
	<p>(高橋委員) それ以外でも季節によって観察会みたいなのがあったりするから。ボランティアに登録すると、入門講座を受ける前からそういうお知らせがあるので参加できますよね。</p>
	<p>(奥井委員) そちらに促すような感じで。</p>
	<p>(高田部会長) いろいろな情報を受けてまた参加する方がいらっしゃるということですね。</p>
	<p>(高橋委員) 来年度のスケジュールがわかれば、観察会みたいなものも記事に書けるかもしれなません。ただ、気になったのは、</p>

	<p>私のときは、入門講座は10月に3回でした。</p>
(事務局)	<p>補足ですが、講座の時期について少し会場の都合などもあって、6月に変更したという経緯があります。おそらく、確定ではないのですけれどもそれぐらいの時期になるのではないかなと思っています。場合によっては少し確認して、絶対にということとは言えないと思うのですけれども。ただ、方向性を聞いてみるということは可能かなと思います。</p>
(高田部会長)	<p>発行から考えると、取材が5～6月とあるので。もし、ずれてしまうとなかなか取材が難しいという問題も出てくる。</p>
(事務局)	<p>そうですね。</p>
(高田部会長)	<p>それがわかるのは、いつぐらいなのでしょうかね。</p>
(事務局)	<p>今年度の3月ぐらいには。おおむね、時期は決まっています。3月まではなかなか確定は難しいかなと思います。</p>
(高田部会長)	<p>今は、1案としてこれをということにして。</p>
(高橋委員)	<p>あと、市民農業大学講座というのは4月から12月までに20回あるので。取材の機会は意外とありますよね。場合によっては森づくりボランティア入門講座が秋なら、春に市民農業大学の取材をするなどしてもいいのではないかなと。</p>
(高田部会長)	<p>柱1、2を交換してもいいのでしょうか。</p>
(事務局)	<p>取材時期や発行時期の前後はあり得るので大丈夫です。</p>
(高田部会長)	<p>良しとすれば、そこは調整する。みなさん、なるべくだと、この入門講座をぜひやりたいというご意見ということですね。</p>
(村松委員)	<p>入門講座の森の場所は、この森というのは決まっているのでしょうか。</p>
(事務局)	<p>森の場所は、例年ずっと新治市民の森でおこなっています。少し場所を変えてみようかというところで、今年度は舞岡にしたと聞いております。来年どこになるのかというのは今の段階ではわかりません。</p>
(高田部会長)	<p>どちらにしても、内容は入門編のどういうことをやるのか、概略のところをいろいろと説明していただくということが内容ということですよ。少し、私から質問なのですが、この森づくりボランティア以外の話なのですが、インタープリター養成講座というものもあるかと</p>

	<p>思うのですけれども、これについて、少しご説明いただけますでしょうか。</p>
(事務局)	<p>インタープリター養成講座は、まさにインタープリターのようなことをしたいと思っている方に向けた講座です。何回かの継続の講座になりますが、それを受けることで自然観察ガイド的なことの知識を学べるというような講座になっています。</p>
(高田部会長)	<p>この森づくりボランティア入門講座とともにどのような講座があるのかも、少しそこで一緒に説明できたらいいのかなと思ったりしました。</p>
(高橋委員)	<p>インタープリター講座は、年8回ぐらいですね。私はタイミングが合いませんでした。年8回出席できる人というのが、前提でしたから。</p>
(高田部会長)	<p>少し専門性というのか、講座のような。詳しくは、まだ。</p>
(高橋委員)	<p>実際に森に入って自然観察的なガイドをします。こういうところには、このような植物。意外と入門講座や森づくりボランティアも関係するような話なのですけれども、それとはもう少し違った形のようなですね。</p>
(高田部会長)	<p>そういうのがあるかというのが、相対的にわかれば。自分はここに行きたい、やってみたいというのも選択肢として。まとめみたいなガイドがあって、できたらいいかなと。今回、私も市民農業大学講座などは知らなかったもので、面白いなというのか、こういうのもあるのかというのを知って良かったなと思う。たぶん、市民の皆さんもわかっているかなと思いますね。ご意見いかがですか、Actionのテーマとしては今までの報告書でもまとめたように。今までの評価と提案について、目的を達成するような課題点の改善、そういうのをできるようなテーマとして上げていきたいところですから。そういう意味では、出していたのは皆さんに関心を持っていただいてActionにつながるというのは、いいテーマかなと個人的には思うのですけれども。</p> <p>これは、案としてどの辺りまで出したらいいのでしょうか。</p>
(事務局)	<p>テーマは、今回出したものでよければ所管のほうに調整をするようにします。日付がいつかというのは、たぶん年度末ぐらいになってしまうので、徐々に調整は始めていきたいと思います。</p>
(高田部会長)	<p>農業のほうで言えば、後継者が減少しているということなのでそのボランティアにしる、もう少し本格的に専門家になってみようと思う方へのアプローチとしてもいい。</p>
(高橋委員)	<p>中には市民農業大学講座を受けたあとに、実際に農業を</p>

	やり出した人もいるという話も聞きましたから。
(高田部会長)	<p>そのようなお話も、載せられるといいですよ。中身がだんだん埋められるように。</p> <p>先程の市民農業大学は、募集要件が 67 歳以下でした。森づくりボランティアは。年齢制限はないですね。</p>
(高橋委員)	ちなみに、令和 3 年の森づくりボランティア入門講座は、できたのでしょうか。
(事務局)	開催できました。ちょうどコロナが落ち着いてきたところで、デルタ株とかが出る前でした。
(高橋委員)	ちなみに、申し込みはどれくらいですか。
(事務局)	15 名と聞いています。
(高田部会長)	森づくりボランティアの登録者の数の推移は、どんな感じでしょうか？
(事務局)	森づくりボランティアについては、微増というのか。3 年で更新しないと、切れてしまうのですが、新たになる方もいらっしやるので、微増だそうです。
(奥井委員)	この市民農業大学講座というのは、大体 30 名を定員とするのでしょうか。
(事務局)	大体、そうですね。こちらは、結構人気になっています。
(奥井委員)	平均年齢的には、どんな感じでしょうか。
(高橋委員)	大体、50～65 歳ぐらいの人が多い。
(事務局)	そういう年代ですが、実際に子育て中の方もいらっしやるということも聞いたことがあります。
(高橋委員)	主婦の方もいますね。
(事務局)	もし、取材に行かれるのだったら、そのあたりの方にお聞きいただけると面白い。
(高橋委員)	やはり 7 割以上の回数の出席という形になっているので、通える人が限られてしまいます。
(高田部会長)	<p>では、森づくりボランティアも、市民農業大学講座もこれまでの人数と年齢など。あと、本当はこら辺の方に参加していただきたいという、もし目標があったりすれば教えてください。この取材の視点や、表現も変わってくると思う。事前に、それもわかるといいかなと思う。よろしくお願いします。</p> <p>あと、ではテーマについては皆さん、今出たものでよろしいでしょうか。ほかに、何かこんなのかなどというのはあ</p>

りますでしょうか。

(奥井委員) いいと思います。

(高橋委員) あとは、インタープリター養成講座も候補として入れといていいのかもしれないですね。

(高田部会長) そうですね。一緒に。

(高橋委員) その中から、編集の締め切りなどスケジュール上で一番良さそうなものを取材してはいかがでしょう。私自身は、森づくりボランティアの取材をやりたいなとは思っています。

(奥井委員) 本当にお詳しい、経験者だから。一番最適かな。でも、去年も書かれていたし、同じ面子になっちゃうとそれもどうかと。

(高橋委員) だから、違う観点から書いていただければいいかも。

(奥井委員) 1号の森の愛護会のとときに私、取材して書いたような気がするのですが、今回も取材に日程が合えば、行きたいです。面白そうです。

(高田部会長) そうですね。皆さんで行きたいですよ。

(奥井委員) でも、書くのはまた違う方が書いてもいいのかなと思って。それぞれ、企画で割り当てがありますけれども。2年目だから、また違う分野の方が書いてもいいのかなと思います。

(高田部会長) 違う視点で書いてもいいのかもしれない。今日は、どなたが書くまでは決めなくても大丈夫ですね。

では、このご提案していただいたインタープリターも含めながら、取材の日程がどうなるかというところを少し詰めながらやっていただきたいと思います。

続いて、この森づくりボランティアの活動証明ができたそうなので、ご説明をお願いします。

(事務局説明)

(高田部会長) カード配布の際に反応があったというように捉えていいのでしょうか。

(事務局) カードを配る瞬間を私が見られていなかったのですが説明をしたときには、証明に使えるというところで大きくうなずかれている方がいらっしまったので。興味やニーズもあるのではないかなと思いました。

(高田部会長) ありがとうございます。これは、日にちを入れていただいて、皆さんにお渡しすると。

(事務局)	はい。
(高田部会長)	名前も、こちら横浜市で書いて、お渡しする。
(事務局)	名前は、少しご自身で書いていただく。
(高田部会長)	お渡しするということ自体が、もう証明ということですよ。
(望月委員)	いいですよ。
(事務局)	喜ばれていたのではないかなと思います。
(望月委員)	これ、コピーして出せば就職活動のときに、ボランティア活動になりますから。そのまま使えますものね。本当に、立派なカードを作ってもらって。問題は、チラシ配ったのですけれども。うちの大学の学生は、応募していますか。反応が、いまいちで。
(奥井委員)	反応はありましたか。
(望月委員)	はっきり言うと、「暇ができたら行きます」などと言っているの、よくわからない。私ともう1人、別の講義をしている先生にお願いして、そちらの受講者数が多いので。そちらの先生のゼミにもチラシを配ってもらっています。
(事務局)	4月以降も続いていきますので、ぜひお願いします。
(高田部会長)	大学生の生の声も聞いてみたいですね。
(望月委員)	大学生は、はっきりしています。基本的には、今、バイトができていなかったの。趣味でバイトに出かけていますよ。もちろん、大学に来るのも、非常に新鮮みたいで来ています。バイトを一生懸命やっていて、少しお金ためてどこかに行きたいという本音のところがあると思います。こういう物は、なかなか参加するところまでいかない。実際に参加して帰ってきて、「どうだった？」と聞くと、10人が10人とも「良かったです」と言います。そういうのが、今の学生事情みたいなのところがありますね。行ってきて帰ってくると、とても良かったと言うのですが、なかなか、自分のほうからこういう活動に積極的に参加するという学生は、実を言うと意外に少ないですね。 ましてや、コロナの状況になってしまいましたので。自粛してしまう今の状況はすごくかわいそうです。
(事務局)	どうしても行政側がつくると、そういう参加した人の声などはなかなか書きにくい。恣意的にとられてしまう部分があるので。そういうインフォメーションとして、やはり実際参加した人の声など、そういう口コミは体験を呼び起こすうえで、大事だと思います。アクションのきっかけ

	<p>けになるのかなと、今、少し聞いていて思いました。実際、参加された職員の話にもありましたけれど、実際に参加すると楽しそうにしていると聞きます。そこも、なかなか伝えきれない。あまり、それを伝え過ぎると少しわざとらしくなってしまう。</p>
(望月委員)	<p>そうです。</p>
(奥井委員)	<p>すみません。チラシのデータは、たとえばホームページにあがっていたりなどしますか。PDF を知り合いに送りたいと。</p>
(事務局)	<p>現状は、ホームページに載せていません。ただ、たとえば市民推進会議の見える化部会のページに載せるなどシステム上はできますので、掲載場所等を考えてみたいと思います。まずは今日、皆さんにご報告をしてから。</p>
(奥井委員)	<p>メールでとりあえずいただいても、全然構いません。</p>
(事務局)	<p>まずは、そういった形での共有をさせていただきます。</p>
(高田部会長)	<p>一般の方もホームページがあれば、それだけお伝えしたり、それを独自に見られる方もいらっしゃるかもしれないから、あるといいですね。せっかく連動して、いろいろなことができているので。ぜひ、お願いします。</p>
(高橋委員)	<p>森づくりボランティアのところに掲載しておいたほうがいいのかも。いろいろな説明が出たり、研修の情報も入ったりしていると思います。</p>
(事務局)	<p>少し気になるのは、掲載する場所がどうかと思っています。今は市民推進会議でやっているものと、行政でやっているものという部分が別であるので。その部分の出し方を、少し検討させていただきたいなと思います。</p> <p>こちらのチラシも、先ほどピラミッド構造でお示した一般の方がどのようなステップでボランティアに関わっていくところも説明しています。横浜市の支援や、実際に入ってくる情報なども整理しておりますので。こういったところも、我々がもう少し伝えきれていないところをお伝えする必要があるかなとは思っています。</p>
(高田部会長)	<p>では、テーマについては、よろしいでしょうか。ありがとうございます。議題については、これで全てとなります。何かほかに、委員の皆様のご意見はございますか。それでは、事務局へお返しいたします。</p>
	<p>(事務局連絡事項)</p>
(高橋委員)	<p>少し、違う話なのですが。中期4か年計画が、来年度から始まりますよね。施策ごとにSDGsのアイコンなどが、付されていたりするのでしょうか。</p>

	<p>(事務局)</p> <p>現計画も SDGs については、全体に関わるというところで整理しております。そのアイコンを、どのように次期計画で整理していくか、そこは中でまだ検討している段階でお示しできることはありません。キーワードとして、やはり脱炭素や SDGs など。これからのキーワードについては、当然入ってくるものと想定しているところです。みどりアップ計画は、5か年計画というのが決まっております。現計画は、現計画の中でやっていくことで考えています。来年度からは、3年分の実績がまとまった評価をいただくステップになってくると思います。また、皆さんにご意見をいただき少し内容が濃くなってくるかなと思いますので、よろしくお願いします。</p> <p>本日は、本当に貴重なご意見いただきまして本当にありがとうございます。特に、広報部会は現地に行くというところから始まって皆様にご足労、ご苦労おかけしているところです。ただ今年度、コロナの制約がある中でこのように最後の会を迎えることができたということ感謝申し上げます。</p> <p>今年度は、この会議で最後になりますが来年度以降も引き続き皆様のお力をお借りできればと思っております。事務局もいろいろ準備して、また取材等をスムーズに行えるように頑張ってもらいますので、引き続きよろしくお願いします。</p> <p>それでは、横浜みどりアップ計画市民推進会議第 49 回 広報・見える化部会、終了いたします。どうも、ありがとうございました。</p> <p>(一同) ありがとうございました。</p>
<p>資 料 ・ 特記事項</p>	<p>次第 資料 1 Yokohama みどりアップAction 6 号原稿案 資料 2 2022 年度Yokohama みどりアップAction テーマ案</p>